

2020年10月（フォーラム）；リカレント委員会&勉強会；実施報告；

（R委員会NEWS第5号）

## ～勉強会テーマ；社会人基礎の意義とリカレント教育（中堅社会人）の研究～

### ■2020年10月：リカレント委員会&勉強会を開催致しました。（ご報告）

■日時；2020年10月24日（土）10時～12時／参加者12名（企業7・大学2・協議会3）/ZOOM

■【第1部】；進行司会；渡邊副委員長：①開講&勉強会テーマ説明 ②参加者自己紹介（近況報告等）

1、委員長発題；「社会人基礎力の意義」…①基礎力の定義を再確認する。②コロナ禍での「企業と個人との関連性」の中から見えてきた社会人基礎力と今後の深化を考える。③質疑と意見交換；意義とあり方は理解した上で…「さて、それをいかに伝えるのか」（参加の企業・大学での事例と方策を相互紹介）。  
2、研究報告（渡邊講師）；テーマ「中堅社会人の社会人基礎力」…学生・若手社会人を対象【第1Q；（0歳～25歳）】とした定義・概念を「第2Q（26歳～50歳）の中堅社会人」にまで延伸しその定義と求められる能力・経験を考察。更に「第3Q（51歳～75歳）の中老年社会人」にまで定義と能力分析を深め、人生100年時代に対応した「新・社会人基礎力」の研究を進めている。（第2Q能力の一層の深耕に期待）

■【第2部】；グループ分け（A：長尾／B：芝原／C：渡邊・各組4名）ディスカッション実施。今回のテーマに沿った意見交換。各組代表より概要報告。（参加者の多彩な職歴と知見から充実した時間となった）

■【総括】；次回は第5回フォーラム；11月21日（土）開催予定。

■委員長コメント「社会人基礎力の意義とその普及と伝え方」

●現場の実態を見ると、企業が求め大学が育てる人材像は

「①世の中で通用する人②結果を出せる人」と言える。

●更に企業が困る人として、「受身型」「マニュアル人間」「一匹狼」と指摘して、「前に踏み出す力/考え抜く力/仲間と協働する力」の基礎力養成をあげた。

●「この理解をいかに伝え実現するか」。事例として「初めてのお使い方式」を取り上げ「目標・役割期待設定・プロセス支援と結果評価・報酬（定量・定性）」を明示した「沢山のP」活動実践」と成功・失敗体験を重ねた自己肯定感の高揚と当事者意識の涵養を提唱したい。

■研究報告（渡邊講師）概要紹介

●人生100年時代の社会人基礎力を4Q（クォーター）のライフステージの在り方と能力を定義、より現実的な基礎力の在り方の中間報告である。特に2Q（26～50）の中堅社会人に照準を合わせ、成果・協業・管理能力と「自己認識・レジリエンス・社交力」をあげた。ニーズの高い最終報告が期待される。

■【意見交換会の概要とまとめ】；●1【基礎力の意義を如何に伝え実行していくか】という悩みは、なかなか難題である。「課題に乗ってこない意欲希薄な学生や社員との対応策」には多岐多彩な工夫と仕掛けが実行されてきた。特にコロナ禍で、課外Pや恒例イベントが中止となり更に混迷している。正解はないが、強制的な指示命令では動かない心に近づく、内省力の強化、幼少期経験の回帰、EQやセルフカウンセリング領域からのアプローチが紹介された。●2【基礎力の意義と理解】；3つの能力は単独に定義されているのではなく、当然相互に影響を及ぼし（主体的な計画力と発信力/状況把握力・課題発見力と実行力等）質と効果性を高めることを再認識する。●3【リカレント教育のポイント】；3つの視点では「どう活躍するか（目的）」が重要である。個人の目標設定が学びと学び方を導き、キャリア設計が前提となろう。／前職をシャッフルすることが基礎力を育てる。複数の集団に所属することの意義を子供の成長から実感している。／就活を見ていると「何をやりたいのか。どうありたいのか」が見えないと動けなくなる。／この姿が「目的」重視を尊重する背景にある。